

令和5年第1回中津川市教育委員会（定例会）議事録

日 時 令和5年1月25日（水） 午後1時30分～

場 所 にぎわいプラザ 4-1会議室

出席委員 教育長 岩久 義和
委 員 三尾 和樹 田島 雅子 小栗 仁志 橋本 あみる

事務職員 三宅事務局長・氷室教育次長（兼）学校教育課長・河合事務局次長（兼）教育企画課長・伊藤文化スポーツ部次長（兼）文化振興課長（兼）市史編さん室長・梶屋教育研修所長・伊藤施設計画推進室長・安江幼児教育課長・青木発達支援センターつくしんぼ所長（兼）発達支援センターどんぐり所長・太田阿木高等学校事務長・渡邊文化スポーツ部対策官・早川生涯学習スポーツ課長（兼）少年センター所長・青木図書館長（兼）蛭川済美図書館長・小池中央公民館長・宮嶋鉱物博物館長（兼）東山魁夷心の旅路館長

会議日程 1 開 会
2 前回議事録の承認
3 教育長報告
4 議 事
5 閉 会

日程	議 事	件 名	結 果
第1	議第1号	令和5年度中津川市教育委員会主要事業について	承認
第2	議第2号	中津川市立学校施設の使用に関する規則の一部改正について	承認
第3	議第3号	中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について	承認

■教育長 委員4名のご出席を確認し、ただいまから令和5年第1回中津川市教育委員会を始めます。なお、松井文化スポーツ部長は、本日県外への出張があり、欠席です。

日程第2、前回議事録の承認につきましては、回議といたします。

続きまして、日程第3、教育長報告を行います。お手元に報告概要を配付させていただきましたので、ご参照ください。

12月16日は市議会文教民生委員会に、17日は予算決算委員会と総合教育会議に出席しました。総合教育会議につきましては、福岡小学校の建設現場の視察も含めてご出席いただきました。ありがとうございました。

21日は蘇南高等学校地元市町村協議会に、23日は市議会本会議に出席しました。27日は、教員の管理職任用第二次選考に挑戦する職員を集めて、校長会の協力も得て、事前の面接練習等を実施しました。今年度は校長を目指す者が5名、教頭または主幹教諭を目指す者が10名という内訳でした。昨年よりそれぞれ2人増えています。

年が改まり、1月8日は「二十歳の集い」に出席しました。今年もかつてとは異なる短時間かつシンプルな内容でしたが、二十歳を迎えた皆さんの表情や式に臨む姿がとても良く、爽やかな節目の式でした。文化スポーツ部の皆さん、お疲れさまでした。参加対象者は820人だったと思います。一方で、令和4年度の出生推定数が400人を切っていることを考えると、20年で半減以下、46%ぐらいになっ

てしまっているようです。11日は、毎年審査委員長として参加している消防職員意見発表会に出席しました。14日は消防出初式に出席し、19日は東濃教育事務所長と管理職の人事異動について懇談しました。20日は安心安全まちづくり推進市民会議に出席しました。この会には、三尾委員さんにもご出席いただきました。お疲れさまでした。

続いて今後の主な行事です。27日は、東濃地区教育長会に出席します。

2月に入りまして、1日は校長研修会に、3日は岐阜県都市・町村教育長冬期合同研修会に出席します。7日は幼保職員代表との語る会を行います。8日は教頭会、9日は加子母小中連携教育検討委員会に出席予定です。

私からは以上です。

続いて、事務局及び文化スポーツ部からそれぞれ報告します。

三宅事務局長。

■事務局長 遅くなりましたが、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

それでは、前回以降の主な出席行事等について報告します。

新型コロナウイルス関連につきましては、年が明け昨年末よりは減少傾向にあり、ここ1週間ほども同じ傾向が見られますが、まだまだ高い水準で幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校から感染報告が寄せられています。

コロナ関連の会議は、12月23日、1月19日に県市の新型コロナウイルス対策本部会議が開催されました。

12月市議会につきましては、12月16日に文教民生委員会、19日に予算決算委員会、23日に本会議最終日が行われ、教育委員会関係の補正予算、議案、変更契約の締結について、審議の上、議決いただきました。

その他の行事です。12月15日に市指名審査委員会、19日に皆様にご出席いただいた総合教育会議、21日と28日に幼保管理職面接試験、22日に定例記者会見、新ふくおか小学校統合準備委員会、26日に鷹見信義・木下市議等と面談、28日に四役・部長会、仕事納め式、1月4日に仕事始め式、四役・部長会、6日に、県教育長新年挨拶、12日に、市議会文教民生委員会協議会、13日に幼児教育・保育施設運営協議会、18日に坂本まちづくり協議会教育文化部会、20日に安全安心まちづくり推進市民会議、四役・部長会、23日に中津川ライオンズクラブ様からの寄付贈呈式に出席いたしました。

今後の予定です。

1月25日に教育評価委員会、26日に市議会文教民生委員会協議会、2月1日に校長会、8日に教頭会、9日に加子母小中連携検討会が予定されています。

以上です。

■教育長 文化スポーツ部から、お願いします。

伊藤文化スポーツ部次長

■文化スポーツ部次長 文化スポーツ部に関わる、主な行事や事業について、部長に代わって報告します。

12月20日、杉山幹夫岐阜新聞・岐阜放送最高顧問から前田青邨画伯の作品5点をいただくということで贈呈式が行われました。杉山氏が個人で収集された日本画4点と書1点をご寄附いただきました。今後は市内公共施設や企画展などで一般公開を考えています。

21日、中京学院大学硬式野球部の西尾歩真選手がソフトバンクホークスから育成枠でドラフト指名を受け、市長を表敬訪問されました。西尾選手は168cmの小柄ですが岐阜リーグ戦では打率4割を記録しているそうです。

22日、JICA海外協力隊員としてニカラグア共和国へ野菜栽培指導で2年間派遣される坂下中学校出身の森友希さんが市長を表敬訪問されました。森さんは幼いころから食べるのが好きで、小学生の時に報道写真家のケビン・カーターの

「ハゲワシと少女」の写真を見て「お腹が減っている子ども達を幸せにしたい」と国際協力に関心を持ったというお話をされていました。

27日、国民体育大会、カヌー競技2種目（カヌースラローム、カヤック）で優勝した、第一中学校出身で駿河台大学3年の田中雄己選手の市民功績賞授与式と報告会が開催されました。2024年に開催されるパリオリンピックへの出場が期待されています。

1月8日、令和5年中津川市二十歳の集い「Let's 5～自らの未来へ～」をテーマに開催されました。中津商業高校吹奏楽部の演奏とバトントワーリング部の華やかなパフォーマンスで幕を開け、実行委員を代表して坂本中学校出身の遠藤ゆうきさんが力強く「二十歳の誓い」を述べたということです。対象者は820人で当日の参加者は626人で、参加率は76.3%でした。

12日、アジア・シニアボウリング選手権大会で第3位に入賞された、株式会社デンソーテン所属の吉村直人さんの報告会が開催されました。この大会には10の国と地域から252人が参加し、4人で6ゲーム行い、チーム合計4,787点での入賞となりました。

16日、リレーマラソン実行委員会が開催され、第6回大会を令和5年5月28日に開催することが決定しました。

16日、インターハイと国体のスピードスケート競技に5,000m、10,000mに出場される、第二中学校出身で中京高校1年生の今井慎也さんの激励会が開催されました。

19日、2023年全日本卓球選手権大会の一般男子ダブルスに出場される、中京学院大学の堀川選手、立藤選手の激励会が開催されました。

23日、全国小学生バドミントン選手権大会の都道府県対抗団体戦で、坂下小学校の6年生の堀友希さんが、南木曾ジュニアバドミントンクラブ所属で長野県代表として出場し、準優勝されたということで報告会を行っています。

24日、「第15回B&G全国サミット」が全国の首長や教育長など約500人が参加され、東京で開催されました。青山市長とともに部長が出席しています。また、青山中津川市長が2020年からこのサミットの会長を務めています。

25日、岐阜新聞・岐阜放送東濃懇談会が多治見市で開催されています。

今後の予定です。1月26日、文化財防火デーに伴う消防署の火災防御訓練が、蛭川の蛭子座で行われます。29日、常盤座歌舞伎保存会定期公演が開催されます。2月14日、中津川市文化協会の各会長に集まっていたいただき会長会議を予定しています。

文化スポーツ部からは以上です。

■教育長 ご質問等がございましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 教育長の今後の予定で、2月7日の教育長と語る会、幼保代表職員とありますが、これは公立だけですか。

■教育長 中津川私立、公立の幼保の代表の皆さんと懇談をする機会を毎年もっております。今年何人くらい来ていただくか分かっていますか。

■幼児教育課長 人数は聞いてませんが、例年は7、8人くらい来ていただいています。

■教育長 昨年もそれくらいの人数の方が来ていただいて、フォーマルな形よりも、日頃職員として考えておみえになることを、貴重な機会なのでぎっくばらんに話すということで、しっかり傾聴するように心がけている会です。

■教育長 そのほかよろしいですか。

ご質問等ないようですので、日程第4、議事に入ります。

議事日程第1、議第1号「令和5年度中津川市教育委員会主要事業について」提案説明をお願いします。

河合事務局次長。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 委員の皆さんからご意見、ご質問を頂戴します。4ページからの教育企画課の説明について、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

小栗委員。

■小栗委員 学校教育の適正化について、かねてから定例会でも話されているように、今年度福岡小学校もようやく一つ形になる中で、適正化のスピード感を上げていく必要があると思っています。したがって、連携を強化して推進しながら議論を深めるということですが、いざ行うとなったときの学校の活用において、福岡小学校のように新しく建てるのではなく、既存の学校をうまく利用すべきだと思います。建てるとなると時間もかかるので、スピード感をもっていくために、今ある学校の校舎をうまく活用することが重要だと思っています。多面的に議論しなければなりません、継続しながら、そのようなことも考えながら進めていただきたいと思います。

■教育長 河合事務局次長。

■事務局次長 まずは若者のチームの中でこういった発想が出てくるかということも一つ期待していますし、実際に恵那市が、南部の方で、今ご意見あったような既

存のものを活用していく方向性で動いていることも参考にしつつ、これから恐らく多くの学校、園がそういった形での利用方法を考えていかなければならないと思います。参考までに、中津川市の3幼稚園は学童で再利用ということも見出すことができましたし、公立の方で活用できるのであれば公立で活用しますが、やはり多くの学校が出てきますので、民間活力も活用しながらスピード感をもってやっていきたいと思えます。

■教育長 ほかに教育企画課関係でご意見、ご質問はございませんか。

田島委員。

■田島委員 適正化規模推進計画のことですが、資料には「こういうことをします」と書いてありますが、具体的に、今年はどこをとということなどは決めてあるのでしょうか。

■教育長 河合事務局次長。

■事務局次長 相手があるので具体的には控えさせていただきますが、今の段階で3から4地区はある程度目星を持っています。これまでの幼保のつながりもある中で、今年度から少しずつ、過小規模の学校をもっている地域と話し合いをしていけるといいかなという計画を持っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 小学校を対象にしていると聞こえましたが、中学校はどう考えているのでしょうか。

■教育長 河合事務局次長。

■事務局次長 地域によって異なるかもしれませんが、小中学校が一緒の可能性もありますし、小学校だけといったところもあり、どちらかが優先順位が高いとは考えておらず、地域の状況を見ながら進めていきます。

■教育長 学校規模適正化推進については、議会でも答弁し、平成24年から繰り返しお話ししているように、最初の対象となるのは、極めて規模が小さくなってしまった過小規模校です。子供たちがよりよいひとりだちをしていくために、厳しい教育環境にあるということです。いよいよ令和5年度は完全複式校が1校生まれます。6学年だけ学級は3つという学校が生まれます。相変わらず、中学校ですが1学年の在籍生徒数が1桁という学校があります。こういったところがいわゆる過小規模校なので、こういった学校や地域との話し合いについては、ぜひ加速し、前に進めていきたいと思っておりますし、進みつつあると考えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 この適正化規模計画を始めた頃に、教育委員たちで小諸中学校に研修に行きました。小諸中学校はかなり広い範囲でしたが、相当な決断で絞って適正化

をしました。そこに見学に行って勉強しましたが、中学校について遠くなっていたかなと最近思っていました。東濃辺りは次第に中学校の適正化も迫ってきている気がするので、コロナ禍で人が減り、中学校についてもさらに勉強して声を上げていかなければならないと思っております。お願いします。

■教育長 続いて、施設計画推進室についてお願いします。

田島委員。

■田島委員 教育企画課の学校規模適正化のところ、まちづくり協議会などと検討するということが書いてありますが、これと施設計画推進室の地域保護者との懇談会等の開催とあるのは別々に行うものですか。

■教育長 伊藤施設計画推進室長。

■施設計画推進室長 当初、事業化を進める中でまずまちづくり協議会などのところから話が始まっていくので、ここの大きな分けとして具体的に事業化してあるものが今施設計画推進室で進んでいる事業です。全体計画の中でそういった話をしてきたものが順番に下りていきます。今回で言いますと、坂本の調理場をこれから進めていきます。その大きなところから始まったものが、徐々に事業としてなっていく中で、まちを含む地域、保護者へと順番に説明が下りていくというイメージで、そのような書き方がしてあります。ただ、当然地域の皆さんと話をすることで変わらないので、同じに表現にしておくべきだったと思っています。

■教育長 河合事務局次長。

■事務局次長 先ほど説明した通り、基本的には教育企画課と施設計画推進室が合わせていくということで、表現は違っていますが意図は同じです。地域の人たち、まちづくり協議会の人たち、保護者もいるでしょうし、一緒に行動していきたいと思えます。

■教育長 小栗委員。

■小栗委員 かねてから話をしていますが、坂本地区の規模、リニアを見据えた学校の在り方を考えたときに、小学校、中学校だけを見るのではなく、中津川市全体を見たときに、市として学校の場所、あの土地の活用、税収の問題、いろいろ考えると、あの場所に学校がなくてもいいのではないかと思います。もっと活用の仕方があると思います。あれだけの土地で、リニアの玄関口として税収が得られるような場所なので、全体的に考えたとき、何かいい知恵がないのかなと思っています。これは教育委員会だけでなく中津川市全体の話かもしれませんが、市役所の中で考えていただけるとありがたいと思います。

■教育長 ご意見ありがとうございました。ほかはよろしいですか。

では、学校教育課についてのご意見を頂戴します。

橋本委員。

■橋本委員 体力、運動能力の向上の部分で、活動が減っているので増やすようにということは理解しています。家庭でも運動や外遊びが大切ということは承知していて、家庭でできることはさせています。学校でも力を入れてくださるということですが、子供の様子を見ていて学校での生活がすごく忙しそうに感じます。遊べるのは10分休み、20分休み、昼休み、放課後ですが、10分休みは授業の片付けと準備があるのでできない、放課後は、下校がすごく早くて、学年が上がるほど放課後がないので、今の生活だと外で遊ぶのは難しいと感じています。そういう時間が少ないことも含めて、学校によると思いますが、けがが多いのでこれはしないようにしようなど制約が多いことも理由にあると思います。その辺も踏まえて具体的に遊ぶ時間、遊べる心の余裕を作っていただけるとありがたいと思います。

■教育長 氷室教育次長。

■教育次長 貴重なご意見ありがとうございます。全くおっしゃる通りで、まずは子供たちが自らの体を鍛える時間、場面の確保を小中学校でできないかということそれぞれの学校で状況を分析して考えてほしいと思っています。例えば、中学校でも部活動の地域移行が進んでいきますが、本当に平日の部活動を全て失くしてしまってもいいのだろうかと思っています。部活動で得るものは中学生においては大きいと思っていますので、そのことも加味しながら、状況に応じて体力、運動能力の向上について、それぞれの学校で課題点を見出していきたいと思っています。

■教育長 ほかにご意見、ご質問ございませんか。

三尾委員。

■三尾委員 誰もが思っていることですが、やはり学校教育課のやろうとしていることの土台になる部分の一端を担っているのが教育研修所だと思います。学校教育課がこのような教育をするためには、やはりそれができる教員、職員、学校を作ることが大切です。ぜひ学校教育課と教育研修所が常に交流し、連携しながら中津川市の学校教育課の主要事業がよりよくできるように、できる先生を育てていただきたいと思っています。

■教育長 ご意見ありがとうございました。

研修所も含めて、いかがですか。

田島委員。

■田島委員 教育研修所ですが「ICT教育の充実を目指した研修を重点的に実施する」とありますが、タブレットを導入して3年、学校を見せていただくと、各学校でいろいろ苦労しながら使い方の模索をしておみえです。私たち素人が見ても、これは使わなくてもいいのではないかということもあったり、これはすばらしいア

アイデアだなというところもあったり、本当に皆さん探している最中というようでした。そこで3年経ったこの研修ですが、各学校で素敵なアイデアを生み出したことを中津川市中の学校に広めるという研修なのでしょうか。

もう一つ、3年経つと弊害がだんだん見えてきたと思います。その弊害も教えてください。

■教育長 梶屋教育研修所長。

■教育研修所長 まさにおっしゃった通りで、これまでの財産が各学校でできてきて、ただそれが各学校の中で止まっていると思います。これまでも授業研を通して、使い方について各学校の代表に出てきていただき、それを見てもらうことや、この2年間の実践をとりまとめたものも毎年作っています。しかし、そういったものを来年度は特に広げていくことをしたいと考えています。これまでは「とにかく使いましょう」だったので、なぜここで使うのかという疑問がたくさんありましたが、そういったところではなくて、有効的に使っている場面の使い方等を広げていくというところを重点的に考えています。

弊害については、確実に調査したわけではないですが、ICTを使うために、各家庭にもお願いして環境を整えていただいて、ほとんどの子供たちが家に帰ってもネットにつながれる環境ができました。そうしたことで、ICTだけではなく、違う使い方でもネットにつながっている子供たちの数も増えてきています。学校では授業で使うことがほとんどですが、家でもつなげられるということで、各家庭でもどのように使っていくかということ、来年度重点的にやっていかなければいけないと思っています。このように、環境整備が進んだがゆえに子供たちがネットにつながりやすくなったという面で、画面視聴における見ているものの割合がいびつなところがある点が弊害として挙げられると思います。

■教育長 田島委員。

■田島委員 1日24時間しかないのに画面視聴率がものすごく上がって行って、体力向上の方にもとても影響があると思います。また、いろいろと悩み事を潰していかないといけないと思います。よろしくお願いします。

■教育長 続いて、幼児教育課の説明につきまして、ご質問、ご意見をお願いします。

田島委員。

■田島委員 公立保育所事業には「研修機会の充実による保育士の資質向上」というのがありますが、法人保育所事業には「研修機会」という言葉が出てこないのはどうしてでしょうか。同じ小学校に進んでいく子供たちの面倒をみている保育士たちということを考えると、どちらもしっかり研修していただきたいと思います。

■教育長 安江幼児教育課長。

■幼児教育課長 研修に関しては、公立幼保の研修会もありますが、民間の方に来ていただく研修会もあり、民間は民間で県の研修やそれぞれの研修をやっていたてはいますが、一緒に行う研修もあります。こちらに記載した方がいいかと今思いました。

■教育長 田島委員。

■田島委員 公立と私立に私はいつもこだわっています。私立ができてからもう大分時間が経っていますが、最初の頃はとても大変だったと思います。私立も園児を確保しないといけないということもありましたし、どちらも仕事として利益追求もあったらろうし、その点で公立との隔たりはかなりあったと思います。それから歴史が進んできて、今は小学校との連携などいろいろなことを始めておられると、やっぱりどちらも一緒になって壁を超えて子供たちをみていかないといけない時代に入っていると思います。こちらからできるだけ公立と私立の壁を壊していくような仕掛けをしていただきたいと思います。河合次長からも努力をしていると話を聞いていますが、若い保育士の方たちは違う考えを持っていると思いますので、そこを上手に統一していただけるとありがたいです。

■教育長 ほかはよろしいですか。

では先に進みます。発達支援センターについてご意見、ご質問をお願いします。

田島委員。

■田島委員 発達支援センターは子供たちに対して本当に充実して素晴らしい支援をしているということが読み取れます。私は発達支援センターがある西地区に住んでいます。同じ地区には発達支援センターがそこにあることを知らない方たちがたくさんおられます。障がいなり発達支援センターの役割について、隣から理解を深めていただいて、中津川市全域にと進んでいけばいいと思います。外に向けての理解や支援の促進を促すこともできればお願いしたいと思います。

■発達支援センター所長 隣に発達支援センターがあることを知らない近所の方がたくさんいらっしゃいます。去年も西地区民生委員・児童委員協議会の方が来たときに、初めてここに入った、知っていたらもっとお手伝いに来る、掃除しに来るとい声をいただいたので、そういうふうに来年度も引き続きご近所にもご協力願うことをしていきたいと思います。

■教育長 ほかはよろしいですか。

次に、阿木高等学校についてご意見、ご質問ありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 高校生の就職に対する求人冊子を見せていただきましたが、事業所の

ところに、ある特定高校は可能だという指定があります。そうすると、それを見た生徒が「私はここに行きたいけど、だめと書いてあるから違うところを探さなければいけない」とつぶやいていました。それを撤廃することはできないのかもしれませんが、阿木高校のいいところを事業者に宣伝していただいて、せめて指定していただくような動きをしていただくとともに選択肢が広がっていくと感じました。

■教育長 太田阿木高校事務長。

■阿木高校事務長 毎年新規開拓は少しずつやっており、進路の先生をはじめそれぞれの先生方にも行っていただく中で、徐々に指定をいただけるところも増えてきつつありますので、引き続きそういった努力を続けていきたいと思っております。

■教育長 出口を広げるということは子供たちの未来への可能性を広げるということに直結するので、高等学校任せではなく教育委員会全体でそういったことをしっかりやっていくことが、結果的に阿木高校に来てくれる生徒の数を増やすことにもつながることだと思います。貴重なご意見を頂戴しましたので頑張っていきたいと思えます。ありがとうございます。

ほかはよろしいですか。

では、教育委員会分についてはここまでとさせていただきます。また何かお気づきの点等ございましたら個別で結構ですので事務局にお知らせいただくとありがたいです。

■教育長 続いて、文化スポーツ部から説明をお願いします。

早川生涯学習スポーツ課長。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 では、各課にご意見、ご質問を頂戴します。初めに、生涯学習スポーツ課についていかがでしょうか。

橋本委員。

■橋本委員 健康でライフステージに応じたスポーツ活動というところで、スポーツ少年団の加入が少なくなっているというお話でしたが、私の子供も2人とも野球と柔道でスポーツ少年団にお世話になっています。私の知っている限りでは、スポーツ少年団に入っていないクラブチームがかなりあって、スポーツ少年団を敬遠する傾向があると感じています。実際スポーツ少年団に入っている我々からすると、入っている理由は、自分がやりたいスポーツがあるからです。昔からの流れなので仕方ないですが、スポーツ少年団に入っていないクラブチームに比べると、大人が会議に出席する必要があったり、地域の行事に参加しなければならなかったり、そのせ

いで練習時間が削られてしまうなど、純粹にそのスポーツをするだけではなく、プラスでやらなければならないことがたくさんあります。少し補助金はいただけますが、そういうことが嫌なので自分たちで作ろうという任意の団体が結構あって、そういうところが強かったりします。入る方はスポーツ少年団であろうがなかろうがやりたいスポーツができればいいので入っていることが多いと思います。部活動を地域移行するとなった場合、その辺の組織のまとめ、把握をどうするのか気になりますし、スポーツ少年団はそもそも要るのか、どう考えているのでしょうか。

■教育長 早川生涯学習スポーツ課長。

■生涯学習スポーツ課長 今のお話の通り、スポーツ少年団が、今は指導者も登録制になって、さらに有料でお金結構かかることもあり、指導者離れというのの中にはあるかと思えます。そういった中で、いろいろな地区を取り上げてみると、総合型地域スポーツクラブが立ち上がっているところなどは、受け入れとしては、スポーツ少年団がなくても、総合型地域スポーツクラブで継続的に行うことが可能になってきています。現在、正直なところスポーツ少年団の存在意義が非常に難しくなっている地域はあると思えます。しかし、スポーツ少年団が要るか要らないかということになりますと、考え方としては、総合型地域スポーツクラブは勝利至上主義とか、クラブチームということで技術力を上げて上位を目指す方針だったりする部分も当然出てくると思えますし、指導者も会費を取って運営することもあるかと思えます。一方でスポーツ少年団については、指導員の登録にお金がかかるという部分が出てきましたが、体験的に、少しこういったものに関わってみたいということで気軽に関わっていただいて、一度体験していただいて自分に合うか合わないかという形のものとして続けていくことができないのかなと思えます。今後スポーツ少年団と相談しながら少し考えていければと思っておりますが、気軽に体を動かす、子供たちのスポーツ離れを防ぐために少しスポーツに携わってみんなと協力してやり遂げようという体制に向けていきたいということを考えながら、今後検討しながら進めていきたいと思っております。はっきりとお答えできない部分がありますがよろしくをお願いします。

■教育長 ほかはよろしいですか。

田島委員。

■田島委員 人と地域について、ここに「人と地域のつながり」という言葉がたくさん出てきますが、昔は地域で運動会をやったり文化祭があったり、地域で行楽をしたり、敬老会があったりといろいろな地域行事がありました。そこに子供たちも含めてということだったので、どこの誰かがよく分かっており、挨拶もしてくれて非常に交流があったような気がします。コロナ前から地域の役員もなり手がおらず

とても苦勞してみえて、ほとんど人が来ないので運動会もなくなり、文化祭もなくなり、どんどん地域の行事が縮小されて、今頑張っているのは「どんど」くらいです。子供たちもいろいろな社会事情で警戒して、なかなかあいさつもしてくれなくなってしまいました。それに加えて、コロナがあって3年、地域の方々とは希薄な関係にもなりました。ここに地域、人づくり、つながりと出てきますが、もう元には戻れない気がします。人口も減っており、今までのような地域活動ができない気がします。それはどう考えていますか。もし戻れないならば、新しい方法を考えて、人と地域をつなげていかなければいけないとは思いますが、何か新しい考えはありますか。

■教育長 早川生涯学習スポーツ課長。

■生涯学習スポーツ課長 これもなかなかはっきりしたお答えがしにくい部分がありますが、地域とのつながりが希薄になっていることはどこの地域でも往々にあると思っています。その中で、公民館を拠点とした地域づくりが各公民館講座でも行われています。地域をコミュニティとして若年者から高齢者までどうつなげていくかという点に力を入れていきたいという県の方針もあり、地域づくりに取り組んでいくというおおまかな内容になります。青少年の健全育成の中に、ジュニアリーダーの育成や、地域行事への参画の推進があります。これがどんど、左義長、地域の方々と一緒に竹を組んで書初めを燃やすというような行事や、夏休みの子供講座の開設を行い、幅広い年齢層が関わることによって何とかそこをつなぎとめていく活動を講座を通じて行っていくということです。そういったことを見ながら、それがどのぐらい参加者に浸透していくのかという部分も、講座を通じて、今後のコミュニティづくり、地域づくりの見通しを立てていきたいと思っています。部活動もそうですが、なかなかこの部分は、どうすると一番いいのかというところは、先の見えない部分ではありますので、状況に応じた対応を柔軟に何かしらつなぎとめていきたいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 私は地域の役員をしていますので、役員会に1ヶ月に1回出ています。そこでその地域が何をやるかが決まって、誰がそこに行くかが決まっていきます。区長の方々と公民館でやろうとしていることがつながっていないと、末端の住民までは伝わっていかないので、公民館がやっていることになってしまっただけではいけないと思います。区長の方々とつながっていないと、地域ともつながっていないということなので、そちらもよろしくお願ひしたいのです。

■教育長 早川生涯学習スポーツ課長。

■生涯学習スポーツ課長 区長は地域で中心となってやってみえる方ですし、区長

の下には自治会の自治会長がおみえになります。そういう方のご意見を聴く機会も設けながら、今後どういった講座が人づくりにつながるのか見極めながら進めていきたいと思っております。今こういうものができますという回答はなかなかできません。ご理解いただけるとありがたいと思います。

■教育長 ほかはいかがですか。

では進めます。図書館についてご意見やご質問をお願いします。

田島委員。

■田島委員 図書館を、本を貸す、借りるところ、または本があるだけのところにして新しい形の図書館にしていこうという意欲が非常に感じられます。ありがたいことだと思います。一つ難しいと思うのが、新しい図書館運営に向けて新たなサポーター組織の設立という点で、今までの方針を少し変えていくようなこともおっしゃっていました。今までずっと図書館が大好きで支えてくださった方々もおられて、とても難しいところにチャレンジだと思います。ずっと支えてくださった方々と折り合いをつけながら進めていくことは非常に難しいと思いますが、頑張ってください。

■教育長 青木図書館長。

■図書館長 ありがとうございます。精一杯頑張りたいと思います。今の話ですが、ボランティアとサポーターの2つを分けて物事を考えた方がいいのかなと思っています。まず、今までやってくださっていたボランティアの方々は、新しく新館ができて、部屋も多いので、いろいろな活動が活発化されるのかなと思っています。特に、音訳とか点字とか、そういった人たちの活動報告をする場所がなかなかないというお話を聞いています。皆さんは健康福祉まつりとかでも、いろいろ周知をしていると思いますが、今回新しくできたところでは、新しい施設長と全体のイベントを絡めて紹介するなど、ボランティアの活動も活発化させていけるといいのかなと思っています。もう一つの、サポーターの方々については、養成講座をやりっぱなしで履修者がどんどん増えているという状況がありました。したがって、今まで放置し過ぎていたので、そういった方々に案内をして、もう一度養成講座をやる形で人を集めてみるのはどうかという案が出ています。ただ、少しデリケートな部分もあり、人はいろいろ思いが違いますので、そこは研究させていただきたいと思っています。

■教育長 ほかはいかがですか。

では、文化振興課の主要事業についてご意見、ご質問を頂戴します。

小栗委員。

■小栗委員 人づくりまちづくりについて「民間の力を活用した美術館機能の構想

を検討する」というのを主要事業に上げたということは、こんなふうにしたという何かゴール地点が見えているのではないかと思います。民間の力をどのように活用するかなど、こうしていきいたいということがあれば教えてください。

■教育長 伊藤文化スポーツ部次長。

■文化スポーツ部次長 具体的なお説明ができないというのが現状です。構想を検討するというので、前の中期の計画のときにも「構想を検討していく」ということを上げたのですが、具体的な動きが取れませんでした。受け身になってしましますが、動きを取るには方針・方向性みたいなものがある程度出ないと次に進めない部分がありましたが、今回後期の総合計画において「構想を検討していく」という形でうたい、具体的に検討を進めて構想を練っていこうというお話ができてきましたので、このように上げています。具体的な中身はまだこれからです。

■教育長 ほかはよろしいですか。

最後に、鉾物博物館等についてご意見、ご質問あればお願いします。

田島委員。

■田島委員 公民館について、先ほど小池館長の意見が聴けず残念でしたが、公民館は各部屋をサークルや講座の方々に貸し出しています。例えば花の会がありますよね。この間花の展示会をやっており、ずっと見せていただいていたのですが、8か9流派で本当に少ないです。8か9流派で会場の見栄えがいい感じでした。従事している人が少ないのか、出した人が少ないのかはわかりませんが、お名前を見させていただくと、やはりなかなか年配の方が多いと感じました。花の会だけを取ってみても、きっと新しい人が入ってきてないのではないかと思います。技とか伝統があって、あのように素敵なものが生けられるのに、それが伝わっていかないことが残念だと感じました。そういうサークル、講座がたくさんあると思います。なかなか次の人をお迎えできないということに対して、何か公民館からアドバイスするなど、活性化するためのことはできないのでしょうか。

■教育長 小池中央公民館長。

■中央公民館長 今年度になって、講師の高齢化でサークルが続けられないという団体の話を何件か聞いており、どこのサークルも高齢化で後継者不足という問題を抱えています。サークルの紹介はロビーに出していますが、新規にというところはなかなかなく、そこは公民館としてもどうしたらいいか懸念しています。例えば今度、風流踊りなどの伝統芸能を公民館講座で子供たちに向けて行いたいというお話もあるので、地域の方や利用者の意見を聴きながら、学ぶ、集う、つながるところを意識しながら地域の方とお話しできるといいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 文化スポーツ部が人づくりを推進しているところということで、切り絵の技や花の技、写真の技など、本当に素晴らしい技を持っているサークルの方々がおられます。それを伝えていかないのはもったいない話ですし、反対に、これからやろうかという人を導いていくのも公民館の役割で、介入していいのではないかと思います。このように、活性化に導ける努力をできる限りしていただきたいと思います。

■教育長 ご意見ありがとうございます。

博物館等についてご意見、ご質問はほかにございませつか。

全体を通してあればお願いします。

ご意見、質問等がございませつかので、ご異議がなければ、議第1号については、承認ということによろしいでしょうか。

[異議なし]

■教育長 議第1号「令和5年度中津川市教育委員会主要事業について」は、原案どおり承認とします。

続きまして、議第2号「中津川市立学校施設の使用に関する規則の一部改正について」提案説明をお願いします。

早川生涯学習スポーツ課長。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 こうして学校の使用ができなくなるということですが、何か不都合は起きていますか。

■教育長 早川生涯学習スポーツ課長。

■生涯学習スポーツ課長 高山小学校、現在の福岡小学校、下野小学校の統合に対して、地域から学校施設を活用したいという要望はいただいています。その中で、学校施設については、やはり建物であり、維持管理に費用がかかるので、中津川市の施設管理運用マスタープランに基づき、今後対応していくことになります。基本的には、必要なところに譲るという形になります。地元からの要望のあった内容にお応えできませんが、費用のかからない、例えば照明のない屋外体育施設などつい

では、うまく活用していただくといった方法も考えられるところがあります。その辺を、今教育委員会関係部署、施設管理関係部署等と協議しながら、地域と今後相談を進めていくという内容になっています。今こうなりましたというお話はできませんが、そういうことで進めていきます。

■教育長 ほかにありませんか。

ご意見、質問等がございませんので、ご異議がなければ、議第2号については、承認ということによろしいでしょうか。

[異議なし]

■教育長 議第2号「中津川市立学校施設の使用に関する規則の一部改正について」は、原案どおり承認とします。

続きまして、議第3号「中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱又は任命について」提案説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 異議はありません。こういった会議に出席すると、以前は意見を求められたりした方が、自分は充て職だからということでなかなか意見をおっしゃらないことがたくさんありました。しかし、この資料の委員会の委員さんを見ると、年配の方々は豊かな経験をお持ちで、若い方々は意欲的にまちづくりや誰かのためにというふうに取り組んでおられる方々で、この3つの会議が構成されており、とても嬉しく思います。会議ですが、この方々は自分の貴重な時間を割いて会議に出席されていますので、議長に任せるだけではなく、出席した方々どなたからも発言をいただける工夫をしていただきたいと切に願っています。岩久教育長のおられた会議にも何度か出席したことがあります。普通ならそのまま静かにして帰ってしまう委員にも、それは見事に発言の機会を振られていました。そうすると思ってもよらない大事な意見が出てきたということが多々ありました。会議の方向性の示唆ということではなく、できるだけ出席の方々が一言でも話をして帰っていかれるような工夫を事務局からしていただけると、大事な時間をいただいていますので、大変ありがたいと思います。よろしくをお願いします。

■教育長 青木館長、中津川市立図書館の協議会委員に大学生が入っているのですが、いつからですか。

■図書館長 今回からです。

■教育長 何か経緯がありますか。

■図書館長 田島委員が若い人の声をというのを令和2年か3年の教育委員会でおっしゃったと聞き、会議の中で、誰かいないかと探していたところ、ジュニアサポーターという高校生が活動している部活動みたいなものが図書館にあることがわかりました。そこで活動していた方に依頼してみたところ、承諾してくださったので、メンバーに加えさせていただきました。

■教育長 ほかによろしいですか。

ご意見、質問等がございませんので、ご異議がなければ、議第3号については、承認ということでよろしいでしょうか。

[異議なし]

■教育長 議第3号「中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱又は任命について」は、原案どおり承認とします。

これをもちまして、本日の議事はすべて終了しました。委員の皆さん、ありがとうございました。

それでは、事務局から次回の開催日程について、報告してください。河合事務局次長。

■事務局次長 次回の開催日は令和5年2月15日水曜日、13時30分からにぎわいプラザ4-1会議室にて定例会を開催いたします。

■教育長 それでは、次回は令和5年2月15日水曜日13時30分から、にぎわいプラザ4-1会議室にて定例会を開催いたします。

以上で、令和5年第1回中津川市教育委員会を終了といたします。お疲れ様でした。

[閉 会 (午後3時56分)]